

# 稲城野草散策の会

野草スケッチ センニンソウ（キンポウゲ科）



1996/08/26 稲城市坂浜 絵と文 Ta

私は里山という言葉あまり使わない。  
人に説明するときに里山は通りがよいし、イメージがわかってもらえる。  
しかし、自分を語るときには、「ヤマ」と言った方が、ぴったりくるものを感じるのだ。

---

会報第94号 2012年10月21日発行 発行責任者 尼子 房夫

農家の方は愛着を込めて「ヤマ」と呼ぶ。私も心情的には農家と同じ感覚になってきたのかもしれない。

「ヤマ」については「ヤマザクラ」の項で述べたので、参考にしていただきたいと思う。

「里山」という言葉をポピュラーにしたのは、昆虫を中心に、自然を追う写真家の今森光彦さんである。

『今森——昔、河合雅雄さんの本の中で里山という言葉を発見して、使わせていただいているけれど、僕が伝えたいのはもう少し広い範囲なのです。都市や、そこでのツバメの巣作りも含めて「新里山」として。ドイツの「ビオトープ」のような感じを新しい日本語で伝えたかった。里山というと、山だけと勘違いする人もあります。』（中村桂子の生命誌サロンより）

今森さんの写真集『里山物語』（新潮社）を見ると、彼が言わんとしている里山というものが、ため息が出るほどの美しさで伝わってくる。

里山は人間が手を加えた人工の環境ではあるが、太陽と水と土とがみごとな調和をつくりだしている特異な空間である。

この調和は、生物にとって理想的ともいえる環境であり、里山は多様な生物が棲息している「命のカプセル」なのだ。

私は「里山」に対して、生物という視点からの積極的な意味付けをしていなかった。植物からしか見ていないことがよくわかる。私は「植物バカ」なのだなあ……

その今森さんと、西表島で偶然お会いした。

毎年行っている沖縄オフ。その年は西表島4泊、沖縄本島5泊の日程だった。

西表島の浦内川を船で上って、カンピラの滝で休憩していたときのことだ。

記念写真を撮ろうとカメラを構えたところへ、ちょうどやってきた親子連れがいた。

「すみませ〜ん、シャッター押してください」とお願いした次第である。

リーダーのJさんが、あの人はもしかして今森さんではないかと言う。

訊ねてみるとご本人である。

うわっ、プロのカメラマンにシャッターを押してもらったのだ！！

私はそれまで、今森さんのことは、恥ずかしながらまったく知らなかった。

私は挨拶しただけで、そこにあった花を調べるのに熱中していた。

オフのメンバーに、今森さんと同じ滋賀県からの参加者がいて、話が盛り上がった。

ていたようである。

いま考えれば、もっと話をしておけばよかったと思うが、後の祭りだ。

「里山物語」に感銘を受けたのは、帰ってしばらく経ってからであった。

西表島には島を3/4周する道路が作られている。毎日この道を通ってあちこちのフィールドへ出かけた。

道路に沿ってところどころに田んぼがある。古見部落近くの田んぼも私たちにとって絶好のフィールドだった。

リーダーのJさんは、爬虫類大好き人間だ。

サキシマハブを見つけたり、イリオモテヤマネコの糞を拾ったりしている。

私は、稲城の田んぼとは大きく違う植生に目を奪われて、凶鑑と首っ引きだった。

そのときにはまったく意識していなかったが、あの田んぼも里山なのだ。

稲城とはあまりにも違う雰囲気、ヤマとしても捉えていなかった。

いまはわかる。

あの豊かな生物相が、里山であることを物語っていた。

ところで、沖縄にはセンニンソウの仲間が何種類かあるが、いまだにその区別がよくわかっていなくて、宿題みたいになっている。

そのことからの連想があって、今回のスケッチにはセンニンソウを選んだ。

スケッチしたのはもちろん稲城、坂浜である。

今森さんの影響もあって、私の「里山観」は変貌しつつあるのだが、このエッセーでは「ヤマ」で通そうと思っている。

(2000年9月記)

\* \* \* \* \*

## 〔観察記録〕 9月30日 大丸用水

当日は、台風17号が夕方頃には関東地方を直撃するという予報のため、参加者は少ないだろうと予測していたのですが、南多摩駅には40人の方々がお集まりになりました。

大丸用水は多摩川の水を農業用水として利用するために江戸時代前期に開削されたと考えられている水路です。稲城市が作成した水路図を見ると、水路が分流したり合流したりと見事なまでに網目状になっており、江戸時代前期以前の水利思想によって設計されたことが分かります。

また、享保期に川崎宿名主だった田中休愚によって全面改修されたことが史料に残されているそうです。同じ時期に休愚は多摩川のもう少し下流の二ヶ領用水や六郷用水の改修も手がけています。この両用水は1610年頃開削されたことがはっきりしていますので、大丸用水も同時期に開削されたと考えるのが妥当でしょう。

現在では南武線鉄橋の少し上流の大丸堰で水位を上げて取水されていますが、明治時代までは自然流下の取水だったようです。それが、大正期の山口村山両貯水池への導水による流量の減少、続く時代の機械化された砂利採取による河床の低下によって、自然流下の導水が困難になっていったようです。

さて今回は用水路の水草をじっくり観察しようということで、リーダーの広沢さんはお手製の水草採集道具を持参、さらに水路に入れるようにサンダル履きというイデタチで参加してくれました。

これまでの大丸用水観察会ですと、いったん取水堰付近まで遡ってから戻ってくるというコースでしたが、この日は台風襲来前には終了しようということで、駅付近の大丸用水をそのまま下っていくというコースを取りました。このあたりはまだ水量も多く、おそらく土地の傾斜も強いためでしょう、流れは結構早いことが分かります。観察会後半の矢野口駅近くの水路では流れはかなりゆっくりしていました。広沢さんの説明では流れの速さによって水草の種類も変わってくるそうです。

流路を歩いてみると稲城市内にはまだそれなりに田んぼが残っていて、大丸用水は現役の灌漑用水としての役割を果たしていることがわかります。また流路は分流通流だけでなく、立体交差しているケースもあり、かつての複雑な利用形態を偲ぶことができます。

町の名前が大丸から東長沼に変わったところで、用水路としばらくお別れして多摩川に向かいます。多摩川では河川敷の植物をひとしきり観察した後、稲城北緑地公園に戻って早めの昼食タイムとなりました。

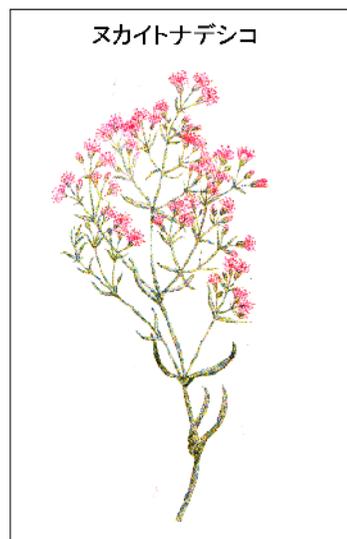
これまでの大丸観察会では、午後はしばらく多摩川沿いを歩いたりしていたのですが、今回はそれも端折って押立地区の流れが遅くなった用水路を観察しながら、矢野口駅に向かいます。午後2時前には駅前で解散となりました。雲行きはだいぶ怪しくなっていました。運よく雨に降られることはありませんでした。

(とーはもん)

#### ▼観察記録（出現順）

エビモ、コカナダモ、メリケンガヤツリ、アカメヤナギ、アメリカセンダングサ(花)、コセンダングサ(花)、ザクロソウ(花)、コニシキソウ、ヒロハホウキギク(花)、イ

又ビユ、ケイヌビエ、トキンソウ(花)、アシボソ、ワ  
 ルナスビ、タカサブロウ(花)、キンエノコロ、ナツズ  
 イセン、アメリカイヌホオズキ(花)、イヌタデ、チカ  
 ラシバ、ヒガンバナ(花)、ヨモギ、ツユクサ(花)、コ  
 ヒルガオ(花)、ヤナギモ、ホザキノフサモ、カラムシ  
 (花)、ササバモ、ヌカイトナデシコ(花)、フウセンカ  
 ズラ(花)、ダンドボロギク(花)、オオカナダモ(花)、  
 コミカンソウ(実)、セキショウ、ネズミノオ、ヤナギ  
 タデ(花)、アレチウリ(花)、オオイヌタデ(花)、シロ  
 バナサクラタデ(花)、タコノアシ、アキノエノコログ  
 サ、ホソアオゲイトウ、ヌマガヤツリ、コゴメガヤ  
 ツリ、カヤツリグサ、アリタソウ、コスズメガヤ、  
 シナダレスズメガヤ、ツルヨシ、サンカクイ、クワクサ、エノキグサ、クワイモ(花)、  
 セイバンモロコシ、マメアサガオ(花)、コウガイモ



#### ▼水草の特徴

エビモ……ヒルムシロ科ヒルムシロ属。葉縁は波を打つ、葉柄はない、細かい鋸  
 歯がある、といった点が特徴です。どちらかというとな流水より、池、沼、  
 河川のよどみなど緩やかなところが好きなようです。

コカナダモ……北米原産の帰化植物で、日本には雄株しかありません。全長はと  
 きに1mを超えます。オオカナダモ（オオカナダモ属）に似ていますが、  
 3輪生ならコカナダモと考えていいでしょう。

オオカナダモ……南米原産の帰化植物。

ヤナギモ……葉が細いので一見してわかります。葉は無柄、幅2～5mm、全縁、  
 5脈がある、などが特徴です。

ホザキノフサモ……アリノトウグサ科フサモ属。帰化植物のオオフサモに似てい  
 ますが、沈水葉だけで、気中葉（水面から飛び出している葉）はありません。  
 これは、他のフサモ属には見られない特徴です。流水中では全長2m  
 ほどになります。ホザキノフサモの葉は4輪生します。花は水面上に出ま  
 す。花期は5～10月。

ササバモ……ヒルムシロ科ヒルムシロ属。2～15cmの葉柄があること。葉の  
 先端がノギ状に尖ることがエビモとの区別点。葉縁には1細胞からなる鋸  
 歯がある、とされますが、肉眼では鋸歯がないように見えます。

コウガイモ……セキショウモとよく似ていますが、コウガイモの葉にはするどい  
 鋸歯があり、根にもトゲのような突起があります。(Ta)



(写真はたざわさん)

〔行事予定〕 2012/12/09 (日) 焼き芋大会

項目	説明
集合	午前10時、京王相模原線京王よみうりランド駅 ※会旗目標 京王よみうりランド駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で3駅目 京王よみうりランド駅には急行は停まりませんのでご注意下さい
行く先 (解散場所)	稲城市穴沢天神での恒例・焼き芋大会です。穴沢天神で解散。最寄 駅は京王よみうりランド駅です 焼き芋準備グループと観察グループの2班に分かれて行動する予定 です
見所・その他	たき火(^_^) 冬芽, 常緑シダなども観察します 当会の忘年会を兼ねます。芋, 酔い子の飲み物などは幹事が用意し ます。差し入れ大歓迎!!
コース	観察グループのコース: 駅前~よみうりランド遊歩道~小沢城址~穴沢天神 (焼き芋大会) (解散: 15時30頃)

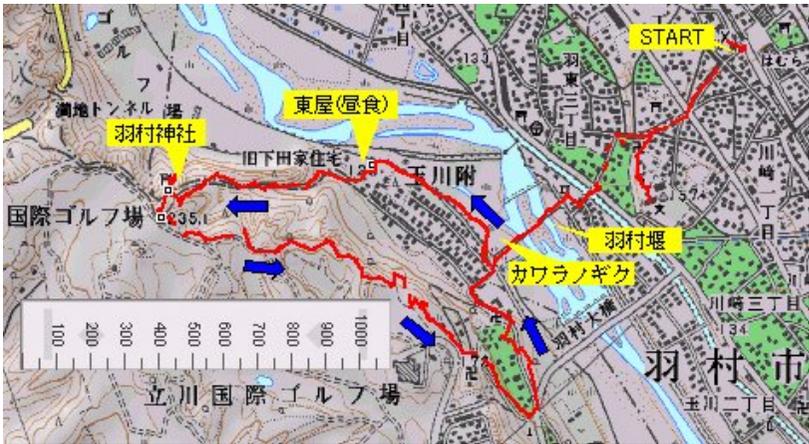
※雨天決行 参加申込み不要、会費当日500円

〔行事予定〕 2012/10/21 (日) 三浦・黒崎の鼻

項目	説明
集合	京浜急行線・三崎口駅 改札口付近 am10時 ※会旗目標 改札口は一個所だけです
交通	京浜急行線品川駅から快速特急三崎口行き8:37発、三崎口駅9:52着。または快速特急三崎口行き8:47発、三崎口駅9:59着 をご利用下さい。
行く先 (解散場所)	黒崎の鼻から三戸海岸を観察して、京浜急行線三崎口駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	目玉はソナレマツムシソウ。海浜植物が観察出来ます
地図	
コース	三崎口駅→黒崎の鼻(昼食)→三崎口駅(解散) コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

## 〔行事予定〕 2012/11/10 (土) 草花丘陵

項目	説明
集合	am10時、JR青梅線羽村駅 改札口付近 ※会旗目標 羽村駅の改札口は一個所だけです
交通	JR青梅線青梅特快 立川発9:35 羽村着9:55があります 立川～羽村は、約20～25分です
行く先 (解散場所)	草花丘陵(一回りして羽村駅へ戻ります)(下の地図を参照ください) 羽村駅にてpm4時頃解散予定
見所 その他	羽村市のボランティアが保護しているカワラノギクが見ごろです カワラノギクの分布は多摩川と相模川の一部に限られています 他に、コシオガマ、コウヤボウキ、ヤマゼリ、タイアザミなどの花 や各種木の実が見られます
地図	
コース	<p>羽村駅→羽村堰→河原(カワラノギク保護地)→羽村市郷土博物館 (昼食)→羽村神社→ゴルフ場に沿った散策路→羽村大橋→羽村堰 →羽村駅(解散:4時頃)</p> <p>行程4～5km程度です 多少のアップダウンがあります コースは天候その他により変更する場合があります</p>

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円